

### 中央アルプス駒ヶ岳で 植生復元作業を実施



#### 【木曽森林ふれあい推進センター】

九月六日、上伊那郡宮田村の黒川国有林の木曽駒ヶ岳で、平成十七年から当センターが主体となつて行っている植生復元作業を実施しました。

この取組は、登山者の入込増加が誘因と考えられる踏み荒らしや大量の降雨、融雪水、凍結、融解による砂礫の移動、強風等が植生の荒廃に拍車をかけていることから、登山道周辺の植生復元を目的に植生マットの敷設を行っているものです。

今年度は、長野県上伊那地域振興局、駒ヶ根市、宮田村、南信署及び木曽署の職員の協力を得て、総勢二十六名で作業を行いました。

事前に植生マットの運搬や播種用の種子採取を地元森林事務所等の応援により実施し、当日使用する資材は、駒ヶ岳に至る稜線沿いの駒ヶ岳管理センター（避難小屋）に仮置きさせていただきました。作業は、駒ヶ岳ロープウェイ千



小雨の降る中での植生マット敷設作業

畳敷駅から駒ヶ岳へ向かう途中にある天狗荘付近の標高約二、八七〇以上の登山道沿いで行い、小雨が降る中での作業ではありましたが、強風に見舞われることもなく、無事に予定した植生マット敷設と種子播種を終えることができました。

作業地付近には近年の植生復元箇所もあり、少しずつではありますが高山植物が回復している状況も見られることから、今後とも関係機関と連携して高山植物の保護・復元に取り組んでまいります。

### 五加小学校五年生の皆さんが クイズや実験で楽しく学習



#### 【技術普及課】

九月八日、長野県千曲市立五加小学校五年生の児童七十六名が、森林のはたらきを学習するため、中部森林管理局庁舎を訪れました。

初めに、職員が長野県の森林率や国有林のこと、森林が果たす役割等を説明し、その後、二チームに分かれて「ネイチャーゲーム」と

「森林クイズ」を実施しました。このゲームは、一人一枚「森林、街、ミミズ、ウサギ」などが描かれたカードを手に、「食う・食われる」など自分と関係の深い相手を探してペアを組み、これを繰り返すと最後には大きな一つの輪になるというもので、一見関わりのない生き物同士も、多くの生き物や環境を介して全て繋がっていることを実感してもらうことができました。また、クイズは「木から作られたものか」を○×形式で答え、意外なものが木で出来ていることに驚いた様子も見られました。



雨水のゆくえを真剣に観察する様子

最後に「雨水のゆくえ実験」を行い、森林のある山とない山に見立てた二つの実験装置に、じょうろで一気に雨を降らせ、どんな違いが出てくるかを観察してもらいました。

「森林がないと、水がしみ込まないし、濁っていて汚い」「森林の方は水がきれい！地面の下からゆっくり水が出てくる」など、気づいた点を口々に発表してくれました。

帰り際に、「ゲーム楽しかった！」「森林って重要なんだね」と、森林に興味を示す声が多く聞かれました。この学習が今後の森林・林業の学びの一助となれば幸いです。

〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ  
「私の森語り」  
もりかた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介します。



「森で愛ましよう」



2023 ミス日本  
みどりの大使  
かみむら  
上村 さや香

■自己紹介

皆さん こんにちは♪

二〇二二ミス日本みどりの大使上村さや香です。二月に中部森林管理局さんで行われた「中部の森林林業従事者写真コンテスト」にて審査員を務めさせていただきました。

一二〇点を超える応募作品の中で、伐倒をする姿やお昼休憩でお弁当を食べる姿、先輩後輩の仲間の姿、林道整備の方々の姿、働く林業機械のカッコいい姿、林業女子の姿など臨場感あふれるお写真の数々が心に残っています。

■活動内容

そんな皆様のお力になるべく、

私は国産木材を使うことの大切さや森の循環の素晴らしさを、特技の作詞作曲を活かして、オリジナルの歌でわかりやすく伝える活動を行っています。全国各地の林業の現場、森林に関わる方々から見聞されたことを元に、オリジナル曲「森で愛ましよう」を発表し、全国で弾き語りしています。

そんな私には心づよい相棒、完全国産木材ギターがあります。このギターは、長野県松本市にある楽器メーカー「デイバイザー」さんによる世界に一つだけのギターです。マスタービルダーと呼ばれる卓越した技術を持つギター職人たちの手作業により、この夏に完成しました。

私は今年、石川県の「能登ヒバ」アンバサダーに就任しています。そこでオリジナルギターの表面であるトップ材、そしてネックの後側は能登ヒバを使用。サイドとバックは山桜、ヘッドと指板は黒

柿が使われていて、完全国産木材一〇〇割のギターです！  
ギターにはこだわりポイントが五つあります。ピックガードに「Sayaka」と名前をくれたこと、周りのラインも緑にしたこと、ポジションマークも緑で隠れクローパーをつけたこと、ブリッジピンも緑にしたこと、緑の羽根マークをヘッドにくれたことです。とことんみどり“にこだわりました。”

全国各地で歌とギターを披露して楽しいことは、歌い終わった後に「なんの木材？」「黒柿！すごい！」持ってみてもいい？」と林業関係者の皆さんが話しかけて来てくださることです。林業関係の皆様視点でのお話はとても興味深く、そこにまたたきさんの気づきや学びを頂戴しています。

私が弾き語りしているところに遭遇したら是非、国産木材のお話を一緒にしながら、実際に私のギターを見にきてください♪

■メッセージ

「森で愛ましよう」の二番に「ねえ、ちよつと休憩しよう 木曜日今日はどんな風に笑いあったかな」という歌詞があります。この歌詞の元になっているのは、林業従事者写真コンテストの皆さんの姿です。広大な自然と闘う林業従事者の皆さんの安全を守るため、「休憩」の時間がいかに大切かということを学びました。そして、各々がコーヒーマシーンを淹れたり、お弁当を食べたり、仲間と笑い合ったりと思いいの時間を過ごしリフレッシュし、またお仕事へ。日本の豊かな森林を守ってくださっている皆さんへの尊敬の気持ちを込めた楽曲になっています。

私はこれからも、皆様の努力や工夫、取組をわかりやすく発信していきます。読者の皆様とどこかでお会いできることを楽しみにしております。それでは皆様「森で愛ましよう！」

○連絡先

一般社団法人ミス日本協会  
〒一六〇一〇〇二三  
東京都新宿区西新宿二一二一  
京王プラザホテル南館九階  
<https://www.missnippon.jp/>



松本市の  
ギター職人の  
皆さんと



フォトコン表彰式に出席



木づかいが 森をよくする 暮らしを変える

# ウッド・チェンジ

WOOD CHANGE

「使って、使って、植えて、育てる」  
「自然の恵みを受け、豊かな自然を創り、私たちの暮らしの豊かさに繋がります。」

使う... 植える

「ウッド・チェンジ」は、身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造化・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動です。

育てる

伐る

森の資源の循環利用

木材利用促進本部  
農林水産省 総務省 文部科学省 国土交通省 経済産業省 環境省

10月は木材利用促進月間



完全国産木材ギターを製作

ギターの  
音色と歌を  
こどもたちに



高性能林業機械の  
素晴らしさを  
体感





急峻な地形の柿其国有林

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南木曾支署 柿其森林事務所】

森林官 井上智広

柿其森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曾郡南木曾町に所在し、町内を流れる木曾川の右岸側に位置する柿其、三殿向、田立国有林の約五、四〇〇

管轄しています。管内の国有林は、ヒノキを主とした人工林が約六割、残りの

約四割が木曾ひのきを含んだ天然林となっています。天然林は岐阜県境を中心に分布しており、「田立の滝群」などその一部は、二〇二〇年三月二十七日に中央アルプス国定公園に指定されています。

当事務所は、森林官一名のため、支署職員等の応援をうけながら、生産、造林、土木事業等の現場監督業務、森林の調査や境界巡検・巡視など、様々な業務を行っています。

生産事業の現場は、急峻で集材距離が長い為、林地によっては集材機とタワーヤードを使ったハイブリッド集材を実施し、造林事業では、造林初期段階の保育におけるコスト削減を図るため、伐採・造林一貫作業システムを採用等、生産性向上に取り組んでいます。

また、柿其国有林にある「柿其



柿其川本流にある「ねじだる」

溪谷」、田立国有林にある「田立の滝」は、木曾森林ふれあい推進センターが木曾地域を訪れる観光客を対象として発行している「木曾路ナチュラルトレッキングMap」に詳しく掲載してありますので、是非ご覧いただき、お越しく下さい。

先日、地元公民館主催の国有林見学会の際には、新築の当事務所にもお立ち寄りいた



き、「普段は通りすがりに見るだけだったが、新しくきれいになった森林事務所を間近で見ることができて良かった」と地域の方々に喜んでいただきました。

■未来の担い手へのメッセージ  
管轄する国有林を森林官として向き合っていくことは容易なことではありませんが、自然の中に身を置いて、当たり前にある空気、水を作り出す森林を、次世代へと受け渡す役割があります。自然豊かなこの職場、皆さんもいかがでしょうか。



請負事業者へ説明する筆者(左)



シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第30回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「伊勢湾台風」その二

昭和三十四年九月の「伊勢湾台風」(台風十五号)は未曾有の大災害となりましたが、これに対して政府も民間も、そして国有林も復興に向けた取組を積極的に進めることとなります。名古屋営林局では管内の営林署での木材の公売を一時的に停止して木材価格の高騰防止と災害復旧用材の確保を図る一方で、発生した高潮の対策(決壊した堤防の締切など)のため



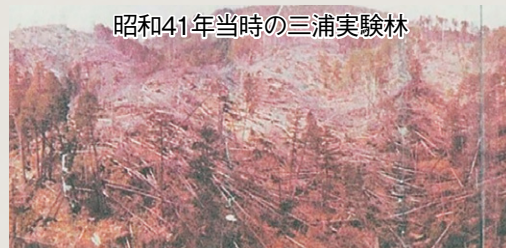
名古屋営林局前に到着したトラックと復旧用材

めの杭用丸太・厚板資材・仮設住宅用材等の確保のために各営林署で緊急生産を行いました。これらの生産・確保には新城、岡崎、岐阜、中津川、下呂の各営林署のほか、長野営林局の岩村田、長野営林署、更には熊本・高知の各営林局からも協力を得ることとなりました。この緊急の生産作業には各地の地域住民・消防団からの協力もいただきました。これらの木材は名古屋市および愛知県に引き渡され、復興に用いられました。

名古屋・長野の各営林局管内で大規模に発



スヶガ谷国有林での復旧用材の緊急生産 (現在の岐阜森林管理署管内)



昭和41年当時の三浦実験林



三浦実験林の全貌 (写真手前・平成10年撮影)

生した山地崩壊については治山事業所の設置による災害復旧が行われました。風倒木被害についても、被害木の調査と処理に大きな努力が払われることとなりました。特に未曾有では昭和三十六年に襲来した第二室戸台風の被害と合わせて風倒被害跡の更新が重要な課題となり、昭和四十一年に「三浦実験林」が設定され、天然更新技術についての研究が継続的に行われていくこととなります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

# 中央アルプス最南端に広がる天然林

恵那山 生物群集保護林

### 設定目的

恵那山(二、一九一㊦)の上部にはシラビソ等の亜高山帯針葉樹の群落があり、林床の一部には希少種であるオサバグサが生育しています。

これら山地帯上部から亜高山帯までの植物群落を一体的に保護・管理しています。

### 地況・林況

恵那山は、長野・岐阜県境に位置し、中央アルプス(木曾山脈)の最南端とされている山です。気候は太平洋側気候に属しており、地質は中・古生層及び濃飛流紋岩類が分布しています。

また、岐阜県恵那地方と愛知県北東部、長野県の一部にまたがる美濃三河高原のうち、恵那山地に細分される大起伏山地の一端で、恵那山はこの高原の最高峰となっています。

所在地  
岐阜県 中津川市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

昨年度の「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」において、「優秀賞」を受賞された写真に写る中村さんの「造材日和」ですが、実は左側の写真もご応募いただき、こちらも人気がありました。

受賞は、応募者一名につき一作品までと決まっております、点数の高い右側の写真が選ばれましたが、



Good Wood Workers

フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力!



作品名:「造材日和」

造材前の笑顔の先に、見守る先輩や仲間の存在を感じさせる素敵な作品です。

中村さん

林業の現場はいかがですか？  
現在の所属先は有限会社早川実業ですが、以前から一緒に働いてきた仲間と一緒にチームワークが良く働けます。

フォトコン受賞後、財団の方から連絡をいただき、信州の森で働く姿などを冊子で紹介することになりました。先日、現場まで取材に来ていただきましたが、完成した冊子を見て、林業に興味がある方々の参考にしてもらえたら嬉しいです。



林業共同説明会の様子 (中村さんは一番右のブースで説明)

十月三日、塩尻市内で開催された財団主催の「林業基本講座」には、同じく「優秀賞」を受賞された野間さんの姿がありました。作品内で「朝の準備」をする南佐久南部森林組合の野間さんは、東京出身で林業を始めて今年で五年目。昨年度林業作業士の研修が修了しており、講座では「先輩からのエール」として、林業一年目の受講生に自身の職歴や林業との出会い、作業中の出来事、趣味である「トレイルランニング」のことなど、笑顔と軽快なトークで伝えていました。

野間さん

林業の魅力を教えてください！

大学卒業後、都内で様々な仕事を転々としてきたが、昔から自然に対する憧れが強く、転職を考えていた時に「長野で林業」だと思い、コネやツテが無い中で、財団に相談し、多くの出会いがあり、森林組合で働くことに。先輩方の見よう見まねで林業をやってきて、もちろん先輩に注意されることもありますが、ケガもあるけど、一生懸命やっていると思ってくれます。

林業は楽しくて仕方ない！



作品名:「朝の準備」



企業組合山仕事創造舎の宮田さんとともに受講生と意見交換を行う野間さん (中央)

編集長だより  
(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

9月16日(土)、長野市内で開催された「林業共同就職説明会」の会場に、フォトコンテストの写真パネル数点を展示していただきました！  
林業の現場で働くあらゆる場面を切り取った写真たちは、未来の林業に向けて積極的に取り組む方々を後押ししてくれる存在でも感じています。本コンテストにご参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます！  
これからもフォトコン作品から繋がる林業の魅力をお伝えします！

取材協力  
一般財団法人  
長野県林業労働財団  
<https://nrinrou.net/>



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

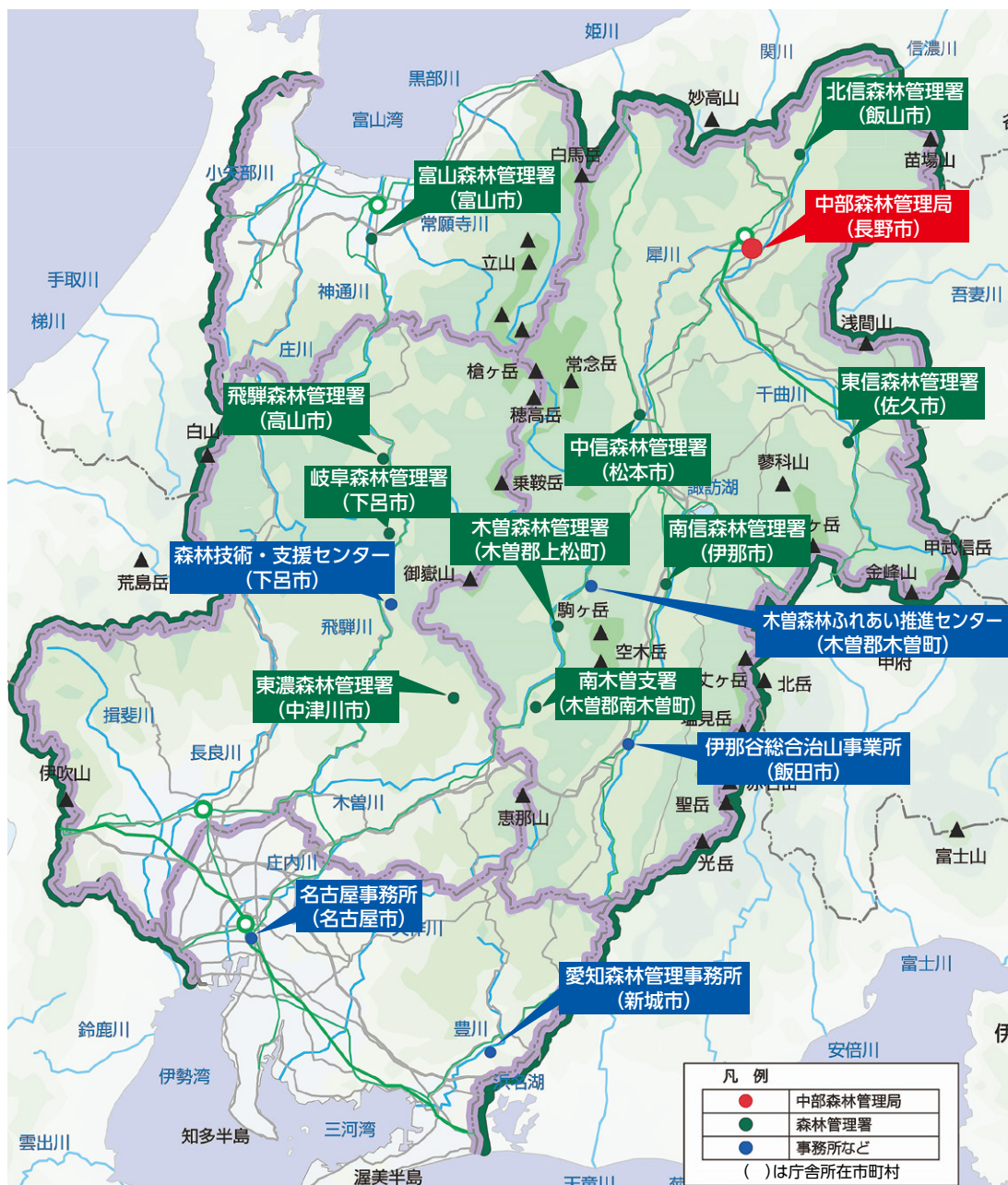


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。